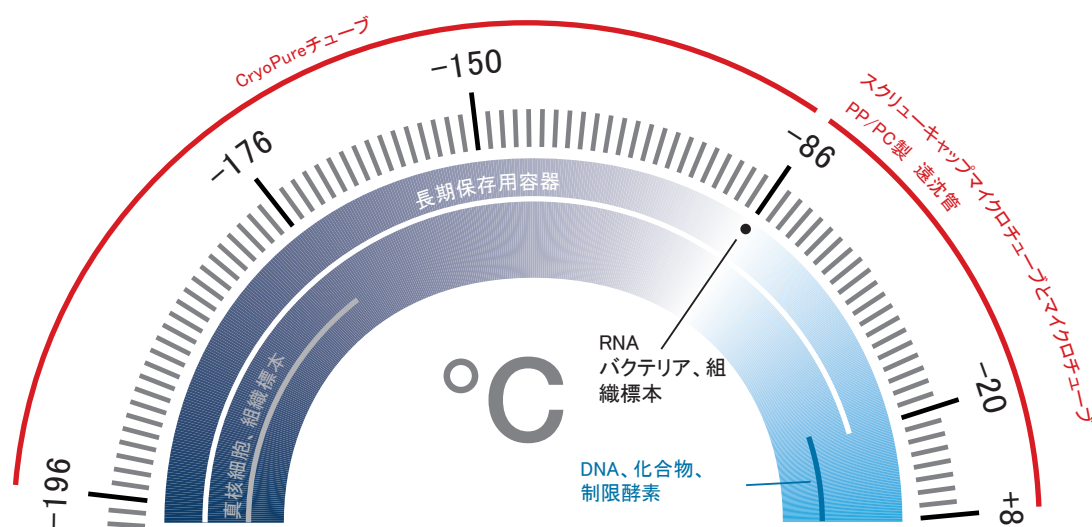


## ザルスタットチューブで凍結保存する場合



物質、サンプルによっては低温保存が必要な場合があります。例えばDNA、制限酵素などは8°C～-20°Cの間、またRNA、バクテリアや組織標本は-80°Cまでの温度での保存が必要となります。通常の保存にはプラスチック容器などを使用しますが、極低温になると素材に負荷がかかります。当社は各々の保存条件に応じてポリプロピレン、ポリカーボネートなどの適切な材質の容器をお薦めしています。機密性に関してはチューブのみならずキャップの選択も非常に重要です。保存時及び解凍時の安全性の観点からプッシュキャップタイプよりスクリーキャップタイプの方が適しています。組織や真核細胞等を最低温度-196°Cで、凍結保存するには、CryoPureチューブのご利用を推奨いたします。

プラスチック製チューブで、数々のテストを行ってきた当社の経験に基づき下記の注意点をお伝えします。

- 基本的に温度範囲0°C未満では、プラスチックの硬度が下がるので、過度の力学的負荷は避けるようにして下さい。
- 凍結条件として内容物が均一に、また下層から上層へ凍結が移動するように設定してください。上層から凍り始めると、チューブ底部に膨張による亀裂が発生しやすくなります。
- チューブが膨張しても十分余裕のあるラックか保存容器をご使用下さい。顕著な絶縁特性があるため、発泡スチロール容器での保存は特にお薦めできません。

容器負荷は凍結される溶媒や使用条件によって大きく異なるので、0°C以下の温度条件や特殊な環境でチューブを使用する場合は、特定の条件でテストし、お客様自身でお確かめ下さい。

この記載はガイドラインとして示したものであり、品質として保証するものではありません。